



イチゴのつぶつぶは何なの

イチゴのつぶつぶは果実(実)

つぶつぶは、実の中にある種のように見えますが、じつは実です。実というと、ぶつうはやわらかくて食べられる部分がありますが、イチゴの場合にはこれがありません。では、食べている部分は何かということ、おしべ、めしべなどをのせた土台、これを花床(花托)といいますが、この部分が大きくなったものです。

イチゴの花のつくり

イチゴが花の時期、花びらのまん中に盛り上がった部分があります。この部分が、花床とよばれる、花をのせている土台です。花床にはたくさんのめしべと子房、おしべがあります。受粉すると子房は果実(種子)となりますが、子房は発達せず、やせた種ができます。これがつぶつぶの正体です。

土台がふくらんで、食べる部分になる

受粉して種ができると、土台がふくらみはじめます。種ができた部分だけが、ふくらむというおもしろい性質があります。形の悪いイチゴができるのは、このためです。

いちごの花と実

(監修・中山 周平)

